

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主管所属	文化観光国際部国際観光振興室
施策名	(1) 2つの世界遺産等を活用した観光地づくりと誘客拡大	課(室)長名	土井口 章博
事業群名	④ インバウンド観光の拡大	事業群関係課(室)	観光振興課、国際課、建設企画課

基本戦略名	1 交流を生み出し活力を取り込む	事業群主管所属	文化観光国際部国際観光振興室
施策名	(3) 海外活力の取り込み	課(室)長名	土井口 章博
事業群名	④ LCC等国際航空路線の強化と長崎空港の活性化	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)</p> <p>1-(1)-④ 2つの世界遺産(候補)や本県ならではの観光資源・素材を活用し、東アジアをはじめ東南アジア、欧州等をターゲットとした海外市場の特性に応じた観光誘客に取り組みます。</p> <p>1-(3)-④ 長崎空港発着の国際線(上海線・ソウル線)の利用促進や安定的な運航の支援を行います。また、LCC等新たな国際定期航空路線の開業や国際チャーター便の増便に向けた取組を進めます。</p>						<p>(取組項目)</p> <p>i) 海外交流の歴史等を活用したアジアを中心とした外国人観光客の誘客の取組(事業群1-(1)-④)</p> <p>ii) 東南アジアをはじめ海外の新興市場からの観光客誘致拡大(事業群1-(1)-④)</p> <p>iii) クルーズ客船の誘致と寄港地周遊観光の促進(事業群1-(1)-④)</p> <p>iv) 九州広域観光周遊ルートを活用した周遊の促進と発信の強化(事業群1-(1)-④)</p> <p>v) 国際線対策の利用促進及び国際チャーター便誘致に向けた取組の推進(事業群1-(3)-④)</p> <p>vi) ゴールデンルートを中心とした主要ゲートウェイ等からの誘客促進(事業群1-(3)-④)</p>					
指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率	(進捗状況の分析)					
事業群	1-(1)-④ 外国人延べ宿泊者数	100万人	64.6万人	71.2万人	110%	<p>1-(1)-④ ・外国人延べ宿泊者数は、熊本地震等の影響により前年実績(74.5万人)より減少したものの、目標値は上回っている。</p> <p>・また、クルーズ客船入港数は目標値である270隻を超える273隻に達しており、誘致活動の成果が出ている。</p> <p>1-(3)-④ ・国際定期路線については、上海線及びソウル線の利用者が増加していたものの、機材繰りの関係によりソウル線が平成27年10月に運休となった。ソウル線運休後、早期再開に向けて各航空会社への誘致に取り組んだ結果、平成28年10月18日からエアソウル(LCC)の就航が決定した。上海線、ソウル線とも今後一層の利用促進が必要となっている。</p> <p>・新規路線誘致については香港・台湾からの誘致に向けて取り組んでおり、香港線については、航空会社が就航について検討を行っている。</p>					
	1-(3)-④ 国際定期航空路線数	4路線	2路線	2路線	-						
その他											

取組項目 iii	松が枝地区再開発構 想検討事業	(H29 新規) H29	—	—	—	民間事業者	長崎港松が枝埠頭2バス化を見据え、背後の土地利用について、民間事業者の参入を促すまちづくりの構想を作成する。	活動 指標	再開発構想検討会議 の開催数(回)	—	—	—	—
	建設企画課		16,200	8,100	1,614			成果 指標	再開発構想素案の作 成件数(件)	3	—	—	
取組項目 iv	九州観光推進機構負 担金	H17-29	34,776	34,776	3,217	九州観光推 進機構	国内外からの観光客の誘客を図るうえで、広域連携の支援は今後益々、重要性を増していく。とりわけ、九州全体の観光振興を図る唯一の組織である九州観光推進機構の機能強化及び役割の増大は不可欠であることから、官民による機構への支援を行った。	活動 指標	九州観光推進機構に よる説明会開催件数 (回)	11	27	245%	複数箇所の国内外でのイベントに参加する など各県単独での実施が難しい事業を 「九州」という広域的な枠組みで実施して おり、「九州」の窓口としての機能を果たし ている。また、九州7県や会員企業との連 携のもと、利用価値の高い情報提供を実 現できている。
	観光振興課		34,867	34,867	3,230			成果 指標	H28:九州外国人延べ 宿泊者数(人)	3,584,000	5,721,010	159%	
取組項目 v	航空路線利用促進事 業(国際線対策)	—	58,397	58,397	9,650	航空会社 旅行者	官民一体の組織である長崎県空港活性化推 進協議会を通じて航空会社に対し、安定的に 運航することを目的として着陸料等の助成を 行ったほか、両路線のインバウンド・アウトバ ウンド双方の利用促進を図ることを目的とした 助成等を行った。	活動 指標	国際航空会社・海外旅 行社等との実務協議 (回)	20	21	105%	上海線の利用者数は、熊本地震等の影 響もあり、前年度比11%の減となった。上 半年大きく落ち込んだが、緊急支援策を 講じたことから、下半期には前年度比を 上回った。平成27年度10月に運休となっ ていたソウル線については、昨年10月か らエアソウルが就航したが、全体として目 標を達成できなかった。
	国際観光振興室		212,839	197,839	9,689			成果 指標	国際定期路線利用者 数(千人)	80	35	43%	
取組項目 vi	インバウンド個人旅行 客誘客拡大事業	(H29 新規) H29-31	—	—	—	東アジア・東 南アジア・欧 米等の外国 人観光客	急増するインバウンド個人旅行者(FIT)をター ゲットとし、従来の主要4大市場に加え、タイ、 フィリピンなどの新興国、欧米等からの誘客を 推進するため、ゴールデンルートや福岡を中 心とした主要ゲートウェイ等からの効果的な誘 導施策を展開する。	活動 指標	長崎県観光情報の発 信回数(回)	—	—	—	—
	国際観光振興室		23,800	11,900	9,844			成果 指標	訪日外国人専用旅行 商品WEBサイトにおけ る長崎県ページへの アクセス数(件)	11	—	—	

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 海外交流の歴史等を活用したアジアを中心とした外国人観光客の誘客の取組(事業群1-(1)-④)

ii) 東南アジアをはじめ海外の新興市場からの観光客誘致拡大(事業群1-(1)-④)

日本全体の訪日観光客数は、平成28年に過去最高の約2,404万人を数えたが、外国人延べ宿泊者数の61.4%が三大都市圏に集中している。本県では、平成28年4月に発生した熊本地震の影響により、5年ぶりに外国人延べ宿泊客数が前年実績を下回る結果(前年比 -4.5%)となっており、東京～京都～大阪といったいわゆるゴールデンルートから本県への誘客を図る必要がある。そのため、中国、韓国、台湾、香港の主要4市場に加え、今後成長が見込まれる東南アジア各国の新興市場や欧米市場において、さらなる認知度の向上に取り組むとともに、各市場に訴求するテーマや素材で誘客を推進する。

iii) クルーズ客船の誘致と寄港地周遊観光の促進(事業群1-(1)-④)

従来は長崎港への誘致活動を中心に取り組んできたが、今後は、県内各港の実状に応じた取組を推進していく。

- ・長崎港に関しては、入港数が急増しており、長崎市内の周遊対策等を促進する長崎市の態勢強化を支援するとともに、島原半島への広域周遊や県産品の販売促進などの経済的な効果を高める取組を強化する。
- ・佐世保港に関しては、入港数が拡大しており、中国クルーズの需要を取り込むことを中心に、積極的な誘致活動を展開する。
- ・離島港等に関しては、入港数が横ばいの状態にあり、日本船社に対する誘致活動に加えて、入港が可能な小型の外国船を誘致することで、入港拡大を目指す。

iv) 九州広域観光周遊ルートを活用した周遊の促進と発信の強化(事業群1-(1)-④)

九州広域観光周遊ルートを活用して、九州全体の観光の魅力を海外市場に訴求するため、九州観光推進機構や九州各県と連携してスケールメリットを活かした情報発信を行い、さらなる誘客促進を図る。

v) 国際線対策の利用促進及び国際チャーター便誘致に向けた取組の推進(事業群1-(3)-④)

上海線については、中国東方航空や旅行社等と連携し、富裕層対策等を行うとともに、利用促進対策を行った。昨年10月に就航したソウル線についてもエアソウルや旅行会社と連携し、就航キャンペーン、韓国国内におけるラッピングバスの運行など利用促進対策を行った。両路線とも、インバウンド利用が主要となっており、安定的な運航のためにはアウトバウンド利用を拡大していく必要がある。両路線の認知度が十分でないことも要因のひとつとなっていると考えられる。認知度向上対策を図るとともに、引き続き、航空会社や旅行会社等と連携し、インバウンド・アウトバウンド双方の利用促進に努めていく。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しが無い場合は「—」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 ii	巡礼ツアー誘致・情報発信事業	韓国及びフィリピンからの巡礼ツアー誘致に取り組むとともに、東南アジア諸国や欧米市場に対しても情報発信を行い、巡礼ツアー誘致の対象国拡大を図る。	⑩	平成30年には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録実現が期待されていることから、この機を捉えて情報発信を強化し、さらなる誘客を図る。	改善
	中国観光市場開拓戦略推進事業	WEBによる情報発信、富裕層対策、教育旅行の誘致等を強化するとともに、上海を経由した定期便乗継やチャーター便の利用による上海以外の地域からの誘客を図る。	②	引き続き、関係各課と連携して中国における長崎県の認知度向上を図るとともに、中国から本県への旅行商品の造成・販売が継続されるよう、積極的なセールスを展開する。	現状維持
	国際観光ステージアップ推進事業	これまでのセールス活動や情報収集の結果を踏まえ、各市場に訴求する効果的な誘客・情報発信を展開する。	②	日本政府観光局等とも連携し、各市場の特性を踏まえたプロモーションを行い、本県への旅行需要を創出する。	終了
	欧米プロジェクト重点推進事業	出島表門橋架橋を契機とした国際交流事業の展開や、2つの世界遺産(候補)など本県の強みや特徴を活かした情報発信や本県の認知度向上を推進する。	②	引き続き、本県の強み、特徴を活かし、経済的実利を見据えた情報発信と本県の認知度向上を図るとともに、人的ネットワークの創出・強化による情報収集、人脈構築を図る。	改善
取組項目 iii	大型客船誘致促進プロジェクト推進事業	・長崎市内の周遊対策等を促進する長崎市(長崎港クルーズ客船受入委員会)の態勢強化を支援 ・平成30年1月から長崎港入港に対するインセンティブの見直しを実施(チャーターインセンティブを廃止)	②	平成30年度は、長崎港入港に対するインセンティブの見直しや、長崎市の周遊対策等の取組状況を見極めた上で、出島岸壁の受入態勢及び誘致活動への反映を検討していく。長崎港以外の港については、港の実状に応じた客船誘致を積極的に展開する。	改善
	松が枝地区再開発構想検討業務委託	H29新規	—	本事業は29年度に松が枝地区のまちづくり構想を作成するのであるが、作成した素案をより実現性の高い構想とするため、30年度に地域の意見聴取や民間事業者への追加ヒアリングを実施し、検討会議の開催や素案の修正等を行う。	拡充
取組項目 iv	九州観光推進機構負担金	—	⑩	九州観光推進機構への負担金については、算定ルールに基づいて支出しているため単県での見直しは困難であるが、事業の実施にあたってはより効果が高まるように同機構と連携のうえ進めていく。	終了
取組項目 v	航空路線利用促進事業(国際線対策)	上海路線及びソウル路線もインバウンド主体の路線であり、インバウンド誘客を図るとともに、アウトバウンド利用の拡大を図る必要がある。29年度は新設の国際観光振興室において、インバウンド・アウトバウンドを一体として対策を講じていく。	②	既存の上海線・ソウル線について航空会社や旅行社等と協議しながら、インバウンド・アウトバウンド両面での利用促進対策を図るとともに、旅客需要が見込まれる香港・台湾をはじめとするアジア地域からの国際航空路線誘致に向けて積極的にセールス活動を行う。	改善
取組項目 vi	インバウンド個人旅行者誘客拡大事業	H29新規	②	旅行会社・航空会社と連携したオンラインプロモーションの実施により本県の知名度向上を図るとともに、国際定期航空路線誘致の取組とも連携して、ゴールデンルートから本県への誘客を推進する。	現状維持